

表3 鼻アレルギーに対する手術的治療

- A. 下鼻甲介に対する手術
- A-1. 下鼻甲介粘膜表層焼灼術*
- A-2. 下鼻甲介粘膜下層凝固術*
- A-3. 下鼻甲介粘膜切除術**
- A-4. 下鼻甲介粘膜下骨切除術**
- B. 鼻中隔彎曲症矯正手術**
- C. ヴィディアン神経切断術、後鼻神経切断術***

* 鼻粘膜の縮小と変調を目的とした手術

** 鼻腔形態異常の改善を目的とした手術

*** 主に鼻漏過多の改善を目的とした手術

表4 下鼻甲介手術に使用される治療機器

- 各種レーザー(炭酸ガス、半導体、Nd:YAG、KTP)
- 電気凝固機器
 - 高周波電気凝固装置
 - アルゴンプラズマ凝固装置
 - ラジオ波凝固装置
- 超音波振動メス
 - ハーモニックスカルペル
- 粘膜切除機器
 - マイクロデブリッダー
- 化学焼灼剤
 - トリクロール酢酸

表5 下鼻甲介レーザー手術の治療成績 (%)

レーザー源 報告者 臨床症状	CO2									KTP		Nd:YAG
	中之坊	久保	荒木	窪田	井之口	川村	福武	齊藤	石田	中之坊	安田	上野
鼻閉	85	72	81	89	74	78	43*	73	83	96	100	100
鼻汁	62	75	44	54	41	75	35*	71	52	82	77	62
くしゃみ	64	77	63	61	53	77	55*	73	34	74	68	49
症状全般	79	78	—	79	83	—	75	82	—	95	—	80

* 症状消失率 ー 記載無し

表6 下鼻甲介レーザー手術の説明

●レーザー治療の手順

- ・まず、鼻の局所塗布麻酔を行います；これまでに耳鼻咽喉科での治療をきちんと受けてこられた方では全く問題なくできます。麻酔はレーザー治療の20分前に、麻酔液のついた綿を鼻腔に入れる「塗布麻酔」を行うだけです。前日の食事制限など、準備は一切不要です。両鼻のレーザー治療を同時に行うことも可能ですが、術後に両側の鼻づまりが起きるために苦しく感じる人が多いので、原則的に初回の方では、どちらか片方のレーザー治療をしていただくことをお勧めしています。
- ・レーザー手術を行う；両鼻でも数分程度で手術は終了します。治療中には鼻の中で煙が発生しますから、息は口で吸って、鼻へ吐くという呼吸をゆっくりして下さい。
- ・術後；お風呂、食べ物など日常生活の制限はありません。手術当日に軽度ですが痛みを感じる方がありますので、念のために消炎鎮痛剤や術後の炎症を抑える目的で抗ヒスタミン剤をご希望によっては処方します。
- ・レーザー手術後の経過；術後2、3日はクシャミ、鼻水、鼻づまりが逆にひどくなります。鼻血が混じることがありますので、鼻を強くかまないようにして下さい。レーザー手術後1～2週間は鼻内に「かさぶた」が付きまます。鼻づまり、痛み、刺激感、発熱などの不快な症状があるときには、鼻の処置をすることで楽になりますので、治療を受けて下さい。1週間程度経過する頃から症状は軽くなりますから、引き続き反対側のレーザー治療を行っていただけます。

●レーザー治療の効果について

・この治療の鼻閉に対する有効率は90%以上ですが、1回の照射では効果不十分な事もあります。治療効果が少ない場合には、良くなるまで安全に繰り返すことが出来ます。通常は3回くらいが標準的な治療回数です。治療効果は個人差が大きいのですが、2～3回の照射で平均2年ぐら快調です。1回の治療でも経過の良い方は、症状が辛くなった時点で再照射のために来院していただくという方針でも結構です。もつ方は数年以上快調となり、人によってはたまに薬を使う程度で、他の治療は不要になります。重症のスギ花粉症の方はシーズン前年の秋頃から、隔月位で2～3回の照射を繰り返していただくのが理想的ですが、回数に特に決まりはありません。

●次のような方はレーザー治療が困難です

- ・鼻中隔彎曲症のひどい方は、鼻中隔彎曲症矯正手術が必要になります。
- ・簡単な鼻処置も出来ない方や神経質な方には手術的治療は適していません。
- ・一人で治療いすに座ることができない小児では手術はできません。